

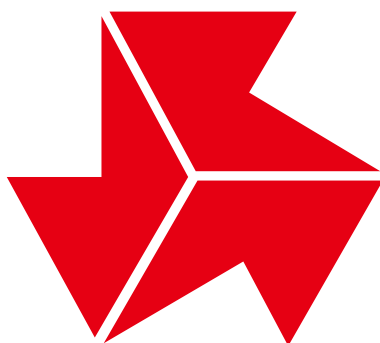
体育連

第 69 号
(令和6年度版)



2025

埼玉県高等学校体育連盟



高体連のマーク

競技は力であり、進歩は技の錬磨にまつ。しかし、競技者はこれをつつむ明朗な精神をもってせねばならない。

このマークを構成している三つのKはこれを意味している。

KRAFT

力

KUNST

技

KLARHEIT

明朗な精神

そして真紅の色彩は高い理想と希望に燃える若人の情熱を示すものである。

令和6年度 全国高等学校総合体育大会



2024

令和6年度 全国高等学校総合体育大会

ありがとうを強さに変えて 北部九州総体 2024

駆け上られ夢の舞台へ 燃え上られ若人の魂

がんばろう! 北陸 ～能登半島地震からの復興を応援しています～

【開催期間】2024年7/21(日)～8/20(火) (久留米アリーナ)
【総合開会式】2024年7/27(土) 福岡県立久留米スポーツセンター体育館

全国高校総体 優勝者



＜サッカー＞男子優勝
昌平高校



＜体操＞女子団体総合優勝
県立ふじみ野高校



＜柔道＞男子団体優勝
埼玉栄高校



＜少林寺拳法＞女子団体演武優勝
県立和光国際高校



＜バドミントン＞男子学校対抗優勝
埼玉栄高校



＜バドミントン＞男子ダブルス優勝
三浦大地選手（埼玉栄）
稲川蓮二郎選手（埼玉栄）



＜ライフル射撃＞男子B R 団体優勝
栄北高校



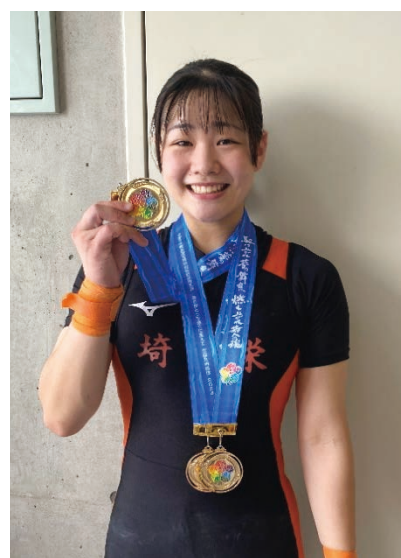
＜バドミントン＞男子シングルス優勝
高野日向選手（埼玉栄）



＜柔道＞男子 100kg級 優勝
平野匠啓選手（埼玉栄）
2年連続優勝



＜レスリング＞男子 125kg級優勝
藤田宝星選手（花咲徳栄）
2年連続優勝



＜ウエイトリフティング＞
女子 71kg級
スナッチ・クリーン&ジャーク・
トータル優勝
蓑田天選手（埼玉栄）
クリーン&ジャークとトータルは
2年連続の優勝



＜体操＞女子個人総合・ゆか優勝
川上紗輝選手（県立ふじみ野）



＜フェンシング＞男子サーブル優勝
河原資起選手（立教新座）



＜競泳＞女子 200 m 背泳ぎ優勝
井出柚紀選手（県立ふじみ野）



＜競泳＞男子 400 m 自由形優勝
内村弥路選手（武南）



＜競泳＞女子 100 m 平泳ぎ・200 m
平泳ぎ優勝
河原彩華選手（武南）



＜競泳＞女子200m個人メドレー優勝
高山紫妃選手（武南）



＜競泳＞男子 50 m 自由形優勝
岩見俊祐選手（春日部共栄）



＜競泳＞男子 1500 m 自由形優勝
丹野義大選手（埼玉栄）



＜競泳＞女子 100 m 背泳ぎ優勝
園部ゆあら選手（埼玉栄）



副知事・県議会議員と優勝者の記念撮影



選手を代表してお礼の言葉を述べる
柔道 平野匠啓選手（埼玉栄高校）



令和6年度 全国高等学校総合体育大会等 埼玉県選手団結団式

令和6年7月12日（金）
さいたま市文化センター大ホール



挨拶
日吉 亨 埼玉県教育委員会教育長



激励のことば
堀光敦史 埼玉県副知事



激励のことば
齊藤邦明 埼玉県議会議長



旗手
富田凉桜
(県立進修館高校 陸上競技部)



激励費贈呈
藤田宝星
(花咲徳栄高校 レスリング部)



誓いのことば
川上紗輝
(県立ふじみ野高校 体操競技部)

令和6年度 学校総合体育大会 総合開会式

令和6年5月12日（日）
熊谷スポーツ文化公園陸上競技場



優勝杯返還



挨拶
臼倉 克典 県高体連会長



挨拶
荻原 篤大 県教育局保健体育課長



激励の言葉
久保 正美 県スポーツ協会専務理事



選手宣誓
代表：三浦 勇希（埼玉栄高校）



も く じ

グ ラ ビ ア

あ い さ つ	会長 白 倉 克 典	2
特 別 寄 稿	埼玉県教育局県立学校部保健体育課長 荻 原 篤 大	3
特 別 寄 稿	公益財団法人埼玉県スポーツ協会専務理事 久 保 正 美	4
専門部特集によせて	埼玉県高等学校体育連盟理事長 鈴 木 紀 幸	5
支部だより（東部・西部・南部・北部）		6

専門部活動記録特集

1 陸 上 競 技	10	19 テ ニ ス	135
2 バスケットボール	32	20 登 山	142
3 サ ッ カ ー	37	21 ス ケ ー ト	144
4 ソフトテニス	42	22 レ ス リ ン グ	146
5 卓 球	47	23 ボ ク シ ン グ	150
6 ラ グ ビ ー	54	24 フェ ン シ ン グ	154
7 ロ ー イ ン グ	60	25 ウエイトリフティング	162
8 柔 道	67	26 ス キ ー	165
9 剣 道	72	27 ホ ッ ケ ー	170
10 体 操	79	28 馬 術	172
11 水 泳	83	29 空 手 道	174
12 相 撲	101	30 ア ー チェ リ ー	181
13 バレーボール	104	31 カ ヌ ー	187
14 ソフトボール	108	32 な ぎ な た	191
15 バドミントン	111	33 少 林 寺 拳 法	193
16 自 転 車	121	34 ダ ン ス	199
17 ハンドボール	125	35 ライフル射撃	204
18 弓 道	130		

各種目専門部指導者紹介	210
研 究 部 報 告	211
定 通 部 報 告	213
埼玉県選手団成績一覧	222
第 66 回 座談会「部活動指導の工夫」	226
第 67 回 練習場めぐり その 1 県立ふじみ野高等学校体操競技部	240
その 2 県立和光国際高等学校少林寺拳法部	242
第 77 回 学体協講習会「これからの体育・保健体育の学習の充実に向けて」	
埼玉県大学 教授 石 川 泰 成	246
本部事業・連盟概要	259
令和 6 年度表彰者一覧	261
編 集 委 員	295

・表紙・題字 元会長 木 村 泰 夫

・表紙図 ドリコス（DOLICHOS：長距離走）、黒絵式パンアテナイア祭の壺

ニコクラテースの執政官ニコクラテースが所有した物。B.C.333 ロンドン大英博物館所蔵



あいさつ

埼玉県高等学校体育連盟会長 白倉 克典

令和5年4月から埼玉県高等学校体育連盟の会長を務めさせていただき2年目となりました。今年度も副会長をはじめ役員の皆様方、そして各学校の会員の皆様方に御支援をいただき、諸事業を滞りなく終了することができました。これも皆様方の御協力の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、今年度を振り返りますと、本県高体連の主催大会は、各専門部役員の皆様、各学校顧問の皆様、そして選手を陰からサポートしてくださっている保護者の皆様の力に支えられ、予定どおりの活動を実施することができました。改めて感謝申し上げます。

今年度の全国高等学校総合体育大会は、「ありがとうを強さに変えて 北部九州総体2024」を大会愛称として、7月21日～8月20日の期間、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、北海道、福島県、和歌山県において開催されました。7月27日には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席のもと、福岡県立久留米スポーツセンターにおいて総合開会式が行われ、陸上競技の代表選手が堂々たる入場行進をしてくれました。競技においては、本県選手団は、団体競技で、男子サッカー（昌平高校）、男子柔道（埼玉栄高校）、男子バドミントン（埼玉栄高校）、女子体操（県立ふじみ野高校）、女子少林寺拳法（県立和光国際高校）の優勝を含め、冬季競技を合わせ19種目の入賞がありました。個人競技では、冬季種目をあわせた男子8種目、女子10種目の優勝を含め、103種目の入賞数を数え、令和6年度の入賞総数は、122となりました。昨年度の112を上回り、『スポーツ王国埼玉』を強く印象付ける大会となりました。

これだけ多くの成果を出すことができたのは、顧問の先生方の熱心な御指導と、御支援いただいている保護者の皆様の御協力があったのものと感じております。あらためて、ここに感謝の意を表します。

また、今年度の大きな出来事としましては、「指導者のインターハイ」と位置付けられております『全国高等学校体育連盟研究大会』が埼玉県で開催されました。いま、部活動は、活動時間の適正化、部活動の多様化と選択肢の拡充、教員の負担軽減、生徒の自主性と自己管理能力の育成、指導者の資質向上など、多くの課題が指摘

されております。この研究大会を機に、今後も持続可能な部活動を実現し、生徒にとって健全で有意義な活動であるとともに、指導者にとっても無理なく取り組める環境の整備に向けた改革が進むことを期待し、「Innovation～運動部活動の未来を拓く～」と掲げました。

講演会では東海大学の勝田 隆教授をお招きし、「コミュニケーションと向き合う～『分かち合う（共有）』という視点から～」と題してご講演いただきました。指導者が生徒とどのように関わり、信頼関係を築くかについての具体的な示唆をいただき、参加者にとって大変有意義な機会となりました。

この研究大会には、全国から総勢470名もの皆様に御参加をいただき、盛会のうちに大会を終えることができました。この大会を通じて、運動部活動の未来について活発な議論が交わされ、貴重な知見が共有されたことと思います。参加者の皆様の積極的なご協力と熱心な意見交換により、より良い未来への道筋が開かれたことを大変嬉しく思います。

埼玉県開催となる本大会がこれほどの規模で、また高い成果を上げられたのは、前年度開催県の鳥取県高体連、公益財団法人全国高等学校体育連盟をはじめとする関係者の皆様の御指導・御助言の賜物であると感謝申し上げます。そして何よりも、本大会の円滑な運営に御尽力いただきました埼玉県実行委員会・運営委員の皆様には、開催地としての責務を果たすべく、長期間にわたり奔走いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。会場設営、日程調整、運営計画の策定など、多岐にわたる調整を重ね、さまざまな課題を乗り越えながら大会成功に御尽力いただきました皆様の御努力に、深く敬意を表します。

本大会を礎に、今後の運動部活動の更なる発展に向けて、引き続き努力を重ねてまいりたいと存じます。

結びに、本連盟のさらなる発展のため、学校関係者・保護者の皆様、さらに関係諸機関の皆様に、高校スポーツへのより一層の温かい御支援、御協力をお願い申し上げます。巻頭言といたします。



特別寄稿

令和6年度を振り返って

埼玉県教育局県立学校部保健体育課長 荻原 篤 大

埼玉県高等学校体育連盟の皆様には、日頃、本県高等学校体育・スポーツの振興と発展に御尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和6年度は、海外ではパリ2024オリンピック・パラリンピックが行われ、国内では「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」へ名称を変更したSAGA2024第78回国民スポーツ大会、第23回全国障害者スポーツ大会が行われるなど、多くのスポーツイベントが行われました。多くのスポーツに触れる機会を通して、日本勢そして埼玉県ゆかりの選手の活躍に多くの人が元氣や勇気もらい、改めてスポーツの力を実感しました。

県高体連の専門部と定通部の大会等を振り返りますと、6月に男子バスケットボール、ローイング、ラグビーフットボール、ライフル射撃、カヌーと合計5競技の関東大会が本県で開催されました。各専門部の皆様方には、校務御多忙の中、大会運営に多大なるご尽力をいただきました。多くの成果と高い評価を得て、各大会が無事終了することができましたことに、心から感謝申し上げます。

また、7月から8月を中心に開催された「ありがとうを強さに変えて 北部九州総体 2024」においては素晴らしい成績を収められ、冬季大会を含めると総入賞数は昨年度が112のところ今年度は122を数え、全国高等学校定時制通信制大会においても本県選手団の素晴らしい活躍があり、入賞数は団体で9、個人で14の合計23を数えました。加えて国スポにおいては、各種目において高校生が躍動し女子総合成績第4位、男女総合成績では第3位という輝かしい成績に繋がる活躍がみられ本県高校生の競技力の高さを全国に強く印象付けていただきました。

これもひとえに、先生方の日頃の御指導、そして高体連各専門部と、各競技団体の組織的な連携による選手育成・強化の賜物であると敬意を表します。

来年度も「開け未来の扉 中国総体 2025」や関東大会、そして、国民スポーツ大会での各専門部の御活躍を御期待申し上げます。

研究部に目を向けますと、令和6年度は本県にて「第59回全国高等学校体育連盟研究大会 Innovation～運動部活動の未来を拓く～」がさいたま市のRaiBoCHallにて開催されました。分科会では「競技力向上」「健康と安全」「部活動の活性化」の観点から12の研究発表が本県を含めた12都府県の代表者によって行われました。さらに、スポーツ庁地域スポーツ課 大石幸司専門官による全体講義や東海大学体育学部 勝田隆教授による講演も行われてとても充実した内容となり、参加された皆様に

とって、これからの時代に合った新しい部活動の価値について情報交換を行い、今後の部活動運営に向けてヒントを得るとても有意義な時間となったことと存じます。役員の皆様方におかれましては長きにわたる準備から当日の運営まで、お忙しい中ご尽力いただき誠にありがとうございました。心から敬意を表します。

1月の高等学校保健体育研究協議会の全体会におきましては、役員をはじめ参加者の御協力の下、活発な研究協議や情報交換を行っていただき、保健体育科教員の資質向上に向けて大変有意義なものとなりました。また、県高体連研究部委員長より、全国高等学校体育連盟研究大会における内容を参加者に共有していただくとともに、県高体連研究部の活動と高体連の5つの専門部における部活動の活性化に向けた取組を御紹介いただきました。今後も、より多くの先生方が主体的に御参加いただける事業となるよう、内容の充実や実施方法の工夫等に取り組んでまいります。

さて、令和4年12月に国が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、県では、中学校部活動の地域クラブ活動への移行に取り組んでおります。令和6年12月には部活動改革に伴う学習指導要領の一部改訂が行われました。高等学校においては、上記のガイドラインを踏まえ、レクリエーション志向の生徒や、運動が苦手な生徒、障害のある生徒など、どの生徒でも参加しやすい活動内容や活動時間等とするなど工夫することや、全ての生徒が一律に加入しなければならないものではないといった内容の文言が追記されました。部活動においては今後ますますInnovationが求められています。部活動の主役は生徒であり、その教育的効果は、これからも変わらないと考えております。今後も持続可能で多様な活動や学校の働き方改革の視点等を踏まえた適切な運営ができれば、御理解と御協力をお願いいたします。

併せて、生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶の徹底に御留意いただきますようお願いいたします。

県教育委員会といたしましても、引き続き外部指導者の有効活用や部活動指導員の配置拡大、適切な部活動の実施に向けたフォローアップ等に取り組み、部活動が持続可能な教育活動となりますよう尽力してまいります。

結びに、埼玉県高等学校体育連盟の一層の御支援・御協力をお願いいたしますとともに、貴連盟のますますの御発展を心から祈念申し上げます。



特別寄稿

埼玉県高体連の更なる発展を願って

公益財団法人埼玉県スポーツ協会 専務理事 久保正美

高体連会報第69号の発刊おめでとうございます。また、埼玉県高等学校体育連盟の皆様には、日頃から本県高等学校における体育・スポーツの発展、とりわけ運動部活動の充実や競技力向上に多大なご尽力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

さて、令和6年度を振り返りますと、全国高等学校総合体育大会夏季大会は、7月21日から8月20日までの期間、「ありがとうを強さに変えて 北部九州総体 2024」の大会愛称、「駆け上がれ夢の舞台へ 燃え上れ若人の魂」の大会スローガンのもと、福岡県・佐賀県・長崎県・大分県を中心に30競技が開催されました。一部の競技については固定開催地となり、男子サッカーが福島県、女子サッカーが北海道、ヨットが和歌山県で開催されました。また、冬季大会は、スケートが岩手県と神奈川県、アイスホッケーとスキーが北海道、駅伝が京都府、ラグビーフットボールは大阪府で開催されました。

埼玉県の代表として参加された選手の皆さんは、全国の高校生と熱い戦いを繰り広げ、素晴らしい結果を残してくれました。まず、団体競技では、男子柔道で埼玉栄高校が悲願の初優勝を飾り、春の全国高校選手権、7月の金鷹旗と併せ高校柔道3冠という快挙を成し遂げました。また、男子サッカーでは昌平高校が埼玉県勢として51年振りとなる優勝を果たし、男子バドミントンの埼玉栄高校は6年振り13回目の優勝で、ダブルスとシングルスでも優勝し今大会3冠に輝きました。女子団体競技においても、体操競技で県立ふじみ野高校が11年振り2回目の優勝、少林寺拳法女子団体演武では県立和光国際高校が見事に初優勝を飾りました。

個人種目における優勝も、水泳の競泳で8種目、ウエイトリフティングで3種目、体操競技とバドミントンで各2種目、柔道、レスリング、フェンシングで各1種目、合計18種目優勝という活躍でした。

冬季大会においても、埼玉栄高校がアイスホッケーで第5位、フィギュアスケートで個人第8位、学校対抗第4位に入賞し、夏季大会・冬季大会合わせて122種目の入賞、昨年の112種目入賞から大きく飛躍する結果となりました。参加された選手の皆さんの活躍に大きな拍手を送るとともに、日頃からご指導いただいた先生方や支えてくださったご家族にも感謝申し上げます。

夏の全国高校総体に続き、9月から10月には第78回国民スポーツ大会本大会が、佐賀県を中心に開催されました。埼玉県選手団は、各競技の活躍により男女総合成績（天皇杯）第3位、女子総合成績（皇后杯）第4位という素晴らしい成績を上げることができました。これも、高体連を中心とした高校生アスリートの活躍のお陰であり、今後も本県高校生アスリートの更なる飛躍を期待しております。

また、今年度は第59回全国高等学校体育連盟研究大会が、令和7年1月16日・17日の2日間、さいたま市民会館おおみや「RaiBoC Hall」で開催されました。「Innovation」～運動部活動の未来を拓く～を大会主題として、全体講演では、本県鴻巣市出身の勝田 隆氏（東海大学スポーツプロモーションセンター次長）が『「コミュニケーション」と向き合う～「分かち合う（共有）」という視点から～』と題して、スポーツの指導におけるコミュニケーションの大切さをお話いただきました。分科会では、「競技力の向上」「健康と安全」「部活動の活性化」の3グループで12名の先生方の発表と活発な意見交換がなされ、部活動を取り巻く様々な課題の共有と、部活動改革に向けた大きな成果があったと伺っております。

県高体連の皆様には全国研究大会を開催するにあたり、様々なご苦勞があったと思います。しかし、本研究大会の開催を機に、スポーツ指導における課題や運動部活動の在り方について考える良い機会であったとも思います。今回のご経験を活かし、組織や運動部活動の充実に繋げていただければと存じます。

埼玉県スポーツ協会は、令和7年2月に創立100周年を迎えました。大正14年（1925）2月26日に埼玉県議会議事堂で創立されて以来、各種スポーツ大会の開催や競技力向上、スポーツ少年団や生涯スポーツの振興などに取り組んで参りました。今後も、県や関係団体の皆様と力を合わせ、本県のスポーツ振興に努めてまいります。高体連の皆様にもこれまで以上のご協力をお願いいたします。

結びに、埼玉県高等学校体育連盟の益々のご発展と、選手の皆さんの更なるご活躍をお祈り申し上げます。